Sugiyama
人間になろう

椙山女学園のあゆみ

椙山歴史文化館

椙山女学園のあゆみ

私たちが学ぶこの椙山女学園には 110 年を越す歴史があります。そこにはどんな歴史があったのでしょうか。「歴史を学ぶと未来が見える」とよく言われます。私たちは学園の歴史を知って、今ここにいる自分の立ち位置を見つめなおし、これからの自分を考えてみる機会にしていきましょう。

■ 学園創設まで

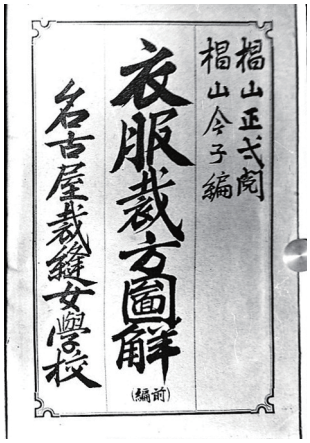
創設者、椙山正弌 椙山女学園の創設者、椙山正弌は明治 12 年（1879）、岐阜県に生まれました。教育の道を志して、18 歳で小学校の教員になりますが、健康上の理由により 2 年で退職しなければなりませんでした。その後、岐阜県教育会の仕事につきますが、機関誌編集の仕事をする中で書いた「県立農業学校の運営について」という論文が県立学校批判とみなされ、辞任することになってしまいました。こうした 2 度の挫折を経て、正弌は、自ら学校を設立することで教育への志を果たしていこうと考えました。当時、女子の教育は、大半が小学校 4 年で終わる時代でした。女子教育の向上に力を尽くそうと考えた正弌は、当時の女性に求められていた裁縫を中心とする女学校の開設を考えます。

東京の女学校へ 「東京裁縫女学校」は当時、新しい裁縫教授法を通して人材教育を進めている学校でした。正弌はまずそこで自ら裁縫を学ぶことを決意しますが、男子は女子校には入学出来ません。しかし志の高さが校長の心を動かし、特別に校長の門下生として学ぶことを許されました。当時、女子の仕事とされる裁縫技術を目指す男子などはだれもいない時代でしたが、千人余の女学生の中に男子ただ一人混じり、3 年間の猛勉強の末、裁縫の理論と技術を習得しました。

もう一人の創設者、椙山今子 東京裁縫女学校では運命的な出会いがありました。同窓生の今子との出会いです。今子は正弌と同じ岐阜県出身で、正弌と同じように学校創設の志を持っていました。二人は意気投合して結婚し、名古屋に戻り、一緒に学校を創設することになりました。

■ 学園創設期の教育

名古屋裁縫女学校の創設 明治 38 年（1905）、日露戦争の只中、武家屋敷を借り、「名古屋裁縫女学校」と名づけた学校が始まりました。生徒は 90 名、教師は校長夫妻含めて 3 人でした。生徒と教師は寮で寝食を共にしました。授業は裁縫以外に各教科の勉強があり、人間として、また一個の女性としての完成教育を目指しました。



和風会・糸菊 開校まもなく、生徒と教師・卒業生で「和風会」という組織がつくられ、学園の年誌「糸菊」の前身の「糸櫻」が発行されました。和風とは、中国の聖哲のことば「和気藹藹、春風駘蕩」（わきあいあい しゅんぷうたいとう）に由来しています。創設者椙山正弌が好んで用いた言葉でした。中高キャンパスにある「和風館」はここから来ています。

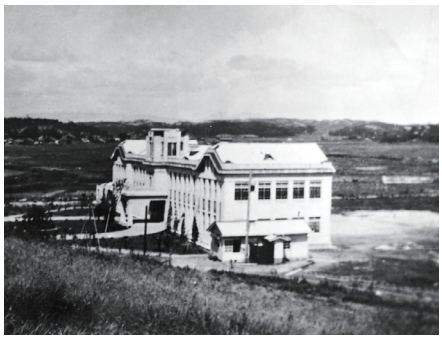
■ 昭和初期までの教育

椙山高等女学校の誕生 明治後期になると、男子の中学校にあたる学校として、女子には高等女学校がつくられるようになりました。大正 6 年（1917）、椙山にも名古屋裁縫女学校に並んで、椙山高等女学校が誕生しました。この時、学校の名前に初めて椙山が登場しました。

学園章 大正 10 年（1921）には学園章ができました。デザインは生徒から募集され、約 100 点の中から生徒の投票によって決定されました。三角は杉の木であると同持に、知育・徳育・体育を表し、周りの円と縦の直線で山の字を表し、上部の空間は無限に向上発達するようにとの願いを表しています。

大正 10 年（1921）、創設者はアメリカの教育を視察しました。この視察の成果は、その後の椙山の教育に生かされていきます。

山添キャンパスの誕生　大正 13 年（1924）、椙山の 2 つ目の高等女学校である椙山第二高等女学校が新たに山添町に開校しました。当時辺りは田園地帯が開けるのどかな環境でした。創設者が「山近く水清き」ところ、と言っているように、水の豊かな土地で、幼稚園と小学校の間の「二つ池公園」には昭和 30 年頃まで池がありました。この椙山第二高等女学校の校舎はアメリカの学校建築の長所を取り入れて造られました。



スポーツを通しての女子教育　創設者はスポーツを通しての女子教育を重視していました。運動会が始まり、部活動が誕生しました。女性の登山はほとんどなかった時代でしたが本格的な登山も行われました。

昭和 3 年（1928）には、山添キャンパスに、総タイル張、6 コース、400 名の観客スタンドの本格的な屋内プールができました。まだプールそのものが珍しく屋内プールなどは他にどこにもない時代でした。このプールでオリンピック日本女性初の金メダリスト、前畑秀子が誕生しました。

椙山女子専門学校の誕生（大学の前身）　アメリカ視察で女性の活躍に感銘をうけた創設者は、「男子と同程度の女子大学が日本に一校もないことを悲しむ」と述べ、「内容の充実した実能・実力ある婦人」を養うことが社会からの要請と考えていました。アメリカ視察から 9 年目の昭和 5 年（1930）、椙山女子専門学校が山添キャンパス内に誕生しました。この椙山女子専門学校は後に椙山女学園大学家政学部となります。

金剛鐘　椙山のシンボルである金剛鐘もまた創設者のアメリカ視察から生まれました。金剛鐘とは 10 個の鐘から成るカリヨンという楽器です。カリフォルニア大学で「カリヨン」の演奏と同時に立ち止り祈りを捧げる学生の姿に感銘を受け、帰国後すぐカリヨンをイギリスに注文しました。カリヨンは 10 年の歳月を経て昭和 6 年（1931）に学園に到着し、以来ずっと毎朝生徒の手で演奏され、生徒が全員着席して目を閉じて聞く姿は学園の伝統となっています。金剛鐘という名前の由来は、そのメロディーが当時の小学校唱歌「金剛石」であったことから名付けられました。「金剛石」の作詞者は、当時の皇太后でした。金剛鐘は戦時中軍部から「金属類回収令」によって供出を迫られましたが、皇太后の作詞であることを理由にして回収を免れ、戦争をくぐり抜け、現在まで学園の象徴であり続けています。

椙山独自の教育　大正から昭和にかけて、おおらかでユニークな教育が展開されていました。自由研究や豊富な校外学習、芥川龍之介、菊池寛のような著名人の講演会、また汽船旅行などもその例です。なおこの時代の椙山の教育について、平成 26 年（2014）に名古屋市教育委員会が発行した『名古屋教育史Ⅱ』には、椙山独自の教育として、「今日的にも大変面白い内容が含まれていたことは注目に値する」と記されています。

学園歌制定　学園創立 30 周年の昭和 10 年（1935）には学園歌が制定されました。また 30 周年を記念して、中高校門の前の木立の中に、孝経幢（こうきょうどう）が建設されました。4 面の青銅版には、孔子の教えである孝経の文字が刻まれています。創設者は当時、孝経を重んじていました。この青銅版はその後戦時体制の中で、軍部の「金属類回収令」で供出させられ、現在の碑は戦後再建されたものです。

■　戦前・戦中の教育

戦時体制・学徒動員　昭和 12 年（1937）の日中戦争開始以後、日本政府は戦時体制を強めていきます。昭和 16 年（1941）からの太平洋戦争中、椙山でも校舎は軍需工場になりました。学徒動員によって生徒は学外の工場にも動員となり、昭和 20 年（1945）、終戦直前に、学徒動員中の生徒と先生 18 名が爆撃によって命を奪われました。空襲で名古屋の町は一面焼け野原になり、学園発祥地のすべての校舎と寮はこの時全焼しました。幸い山添町の第二高等女学校は大きな被害を免れ、戦後はここを拠点に復興をめざしました。

■ 戦後の教育

新しい教育（幼稚園から大学まで） 戦後、新しい憲法と教育基本法の下で新しい教育がはじまりました。女学校という名称はなくなり、男女とも「中学校」・「高等学校」になりました。椙山女子専門学校は大学となり、わが国最初の家政学部となりました。昭和 25 年（1950）には戦時中設立された後休園となっていた椙山幼稚園が再開し、昭和 27 年（1952）には椙山小学校が開校しました。また創立 50 周年後の昭和 32 年（1957）には中高校舎が全面改築されました。

伊勢湾台風 昭和 34 年（1959）、東海地方は伊勢湾台風に襲われました。本校では生徒 4 名、父母 6 名の犠牲者、そして、被災生徒 220 名という大きな被害がありました。学園あげて救援隊が組織され、トラックにボートを積んで生徒の救援に向かいました。生徒も救援物資の供出運動や、現場近くでの炊き出しなどの活動に参加しました。

■ 星が丘キャンパスの誕生と人間になろう

大学の星が丘移転・人間橋 昭和 37 年（1962）、山添校内にあった大学・家政学部が星が丘に移転しました。敷地の 2 つの丘を結んで橋がかけられ、創設者はこれを人間橋と名づけました。人間橋のたもとには碑が建てられ、碑の前半には、人間橋と名付けるに至った経過、後半には「人間になろう」の言葉が刻まれました。またこの時植えられた桜の苗木 1000 本は、現在の「椙山千本桜」となっています。

人間になろう 「・・・人間完成、これこそ学園創設の精神であり学校教育の終局の目標である　諸君よ人間になろう」 この言葉を残して創設者は 2 年後の昭和 39 年（1964）に他界しました。

以後「人間になろう」は学園の教育理念となりました。

創設者が他界した 1 年後には、共に同じ女学校で学び、共に学校を創設し、教員として、また寮母として働いた夫人の今子も他界しました。

■ 学園の拡充

新しい学園体制 新しい体制で教育づくり、環境づくりが推進されました。山添キャンパス中高では、現在の教育目標である「4 つの柱」が確定され、中高の一貫教育が推進されていきました。現在の教育に繋がる教育実践が多く生まれました。図書館、スポーツセンターなどの施設が充実しました。幼稚園・小学校の教育環境も年々整備され、教育活動が充実していきました。

大学キャンパスの整備（日進キャンパスの開設） 大学キャンパスの整備が進みました。学園センターやのぞみ橋も造られ、美しいキャンパスは昭和 61 年度には名古屋市景観賞を受賞しました。昭和 62 年（1987）には日進キャンパスを開設しました。

大学の学部 大学の学部は、家政学部の次に、昭和 44 年（1969）に短期大学部が設置され、33 年間存続しました。昭和 47 年（1972）には文学部が設置されました。昭和 62 年（1987）には、学部としては全国初になる人間関係学部がスタートしました。

その後家政学部は、平成 3 年（1991）から生活科学部に変わりました。平成 12 年（2000）には、短期大学部が文化情報学部に生まれ変わり、文学部は平成 15 年（2003）から国際コミュニケーション学部に変わり、また現代マネジメント学

部が開設されました。平成 19 年（2007）には教育学部、平成 22 年（2010）には看護学部が開設され、現在では7学部を持つ大学に発展しました。大学院も修士課程は四つの研究科、博士課程は 1 つの研究科をもっています。

大学（星が丘キャンパス）

大学（日進キャンパス）

創立 100 周年　平成 17 年（2005）に学園は創立 100 周年を迎え、学園全体で、また各学校で、100 周年を祝う行事が行われました。

山添キャンパスの新たな整備　平成 18 年（2006）には新しい中高キャンパスが完成しました。平成 25 年（2013）には小学校、平成 26 年（2014）には幼稚園の新しいキャンパスが完成しました。平成 27 年（2015）からは保育園がはじまりました。そして平成 27 年（2015）、学園は創立 110 周年を迎えました。

明治 38 年（1905）に、生徒 90 名で始まった椙山女学園は、平成 28 年（2016）現在、園児・児童・生徒・学生総数約 8500 名、同窓生約 13 万人となりました。

中学・高等学校

小学校

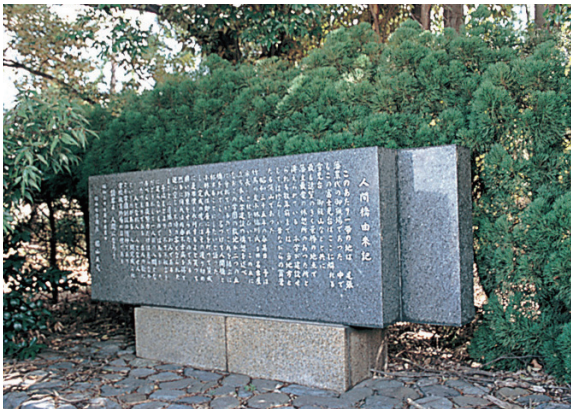
幼稚園・保育園

■　むすび

椙山の「人間になろう」の人間像　創設から 110 年余りの歴史を経て、椙山女学園は大きく成長しました。その成長を支えているのは創設者の遺した「人間になろう」の言葉です。

椙山の「人間になろう」の人間像とはなにか。現在分かりやすく次の 3 つの言葉で表されています。第一に人を大切にできる人間、第二に人と支え合える人間、第三に自らがんばれる人間です。

今、私たちは、この椙山の「人間になろう」の人間像を目指して、一人ひとり歴史の新たな 1 ページを作っていこうとしています。縁あって今ここに居る私たちは、改めて、この椙山で何を学びたいか、ここで何をなすべきかを考え、それぞれが足元を見つめなおして、明日からの自分作りに繋いでいきましょう。



各時代の特徴と創設者のことば

※赤文字部分は創設者のことば（「糸菊」より）

学園創設期の教育

■明治 38 年（1905）～

明治後半期、教育の国家的な整備が強く推し進められた時代である。明治 33 年には「小学校令」の改正が行われて義務教育が無償化され、小学校への就学率が高まっていった。しかし義務教育後に女子が学べる教育機関は少なく、当時女子に必須の技能とされていた裁縫教育へのニーズを中心とした教育を行う学校が各地に開設された。

明治 38 年「名古屋裁縫女学校」設立。椙山女学園の発端である名古屋裁縫女学校の「設立趣旨」には、裁縫・技芸教育によって「良妻賢母を育てることが目的」と記されている。その内容は一般教育も併せたカリキュラムであり、寄宿舎で寝食を共にした全人教育であった。当時、女子教育について良妻賢母主義と職業主義が唱えられていたが、創設者椙山正弌は、**「両主義互いに混和加味」**することが大切と考え、技芸教育の中で**「女子に適当なる職業を授けて、独立自営の準備」**をするとともに**「寧ろ人間として、また一個の女性としての完成教育を期し、学問よりは実力、知識よりは人格の涵養に主力を注いだ」**とし、実用とともに高い道徳と品性を重んじた。

昭和初期までの教育

■大正6年（1917）～

大正期は、“大正デモクラシー”と呼ばれる政治意識の高まりとそれに伴う民衆文化が広がり、今日に引き継がれる知識文化、市民文化の基礎が形作られた時代である。女子の中等教育としては男子よりかなり後れて、男子の「中学校」あたる機関として「高等女学校」が各地に設置された。

大正 6 年「椙山高等女学校」開校。昭和 5 年「椙山女子専門学校」開校。正弌の渡米（大正 10 年）の成果と思われる新しい取り組みが行われ、金剛鐘や室内プールの設置などの他、進取・自主の精神を大切にした教育が展開された。創設者は、**「身体美を増すには運動に待つ外はない。健康の愉快を味わうには運動に待つ外ない、精神の快活を得るには運動に待つ外はない」**とし、運動を奨励した。

戦前・戦中の教育

■昭和 12 年（1937）～

昭和 12 年の日中戦争開始によって日本は急速に戦時体制へと転換していった。大正時代に見られた自由で個性豊かな文化の展開を求める動きは封じられ、戦争に向って国家による統制を強化する体制へと大きく変化した。

日本中で軍国主義教育が推し進められ、女子教育も国家主義的な色彩が濃くなり、婦徳の涵養、皇国女性の育成が強く打ち出されていった。本学園もその例外でなく、戦争遂行のための教育に変容し、学校は工場化され、生徒たちは学徒動員により工場等で働くことを余儀なくされた。

戦後の教育

■昭和 20 年（1945）～

太平洋戦争で敗戦となった日本は平和国家、民主国家として歩むことになった。昭和 21 年に日本国憲法が公布され、昭和 22 年には教育基本法と学校教育法が公布された。これを背景に昭和 23 年、「椙山女学園教育方針（学園教育のあり方）」が示された。そこには**「封建的な良妻賢母主義を否定し、一般的教養の向上と個性の完成をはかる」**などの他、真実を愛し真理を追究する精神、道義心や高雅な情操、勤労精神、体育の振興などが謳われた。

昭和 24 年「椙山女学園大学」開学。昭和 25 年幼稚園再開。昭和 27 年小学校開校。

「･･･ 軍国日本はまさしく敗るべくして敗れました ･･･ およそ一国の運命を決するものは、武力ではなかったことは己にお互に目前にまざまざ体験させられた所であります。然らば一国の運命を決するものは何か、即ちその根本に於て、先ず、その国民の抱く精神、その国民の持てる理想、その国民の開拓せる文化がそれであらねばならないことをこの際我々は改めて十分に認識しなければならないと思うのであります」

星が丘キャンパスの誕生と「人間になろう」

■昭和 37 年（1962）～

昭和 37 年、星が丘キャンパス誕生。敷地内にある二つの丘を結ぶ「人間橋」が架けられ、橋のたもとには正弌直筆の「人間橋由来記」が記された石碑が建てられた。その中で初めて登場した「人間になろう」のことばは、以後、本学の教育理念となった。**「･･･ 予はもとより不才不敏、いうに足りないものではあるが、ただどうかして一人前の人間となるべく日夜努力だけは怠らなかったつもりである。古人の歌に、人となれ人、人となせ人、というのがある。人間完成、これこそ学園創設の精神であり、学校教育終局の目標である。諸君よ、人間になろう」**

椙山女学園のあゆみ

年代	世界のうごき	国内のうごき	学　園
1905〜	●日露戦争（1905）		●名古屋裁縫女学校開校（1906）— 椙山女学園の創始　富士塚町　現在の泉 1 丁目 ●『糸櫻』創刊　和風会発足（1906）
1910〜	●第 1 次世界大戦（1914 〜 1918）		●椙山第一高等女学校開校（富士塚町）（1917）
1920〜	●国際連盟発足（1920） ●世界大恐慌始まる（1929）	●関東大震災（1923） ●第 1 回普通選挙（1928）	●校旗・校章制定（1921） ●椙山正弌校長渡米（1921）— 金剛鐘導入を始め、建築・設備・教育方針などに反映 ●芥川龍之介、菊池寛、小島政次郎、文芸講演会開催（1922）— 椙山第一高等女学校講堂 ●椙山第二高等女学校開校（山添町）（1924） ●制服（セーラーカラー）を制定（1926）— 和装から洋装へ ●屋内プール完成（1928）— 総タイル張り。400 名収容のスタンド
1930〜	●満州事変（1931） ●日中戦争始まる（1937） ●第 2 次世界大戦始まる（1939）	●国家総動員法公布（1938）	●金剛鍾（カリヨン）ロンドンより到着（1931） ●前畑・小島両選手ロサンゼルスオリンピック出場（前畑 2 位）（1932） ●創立 30 周年　孝経幢（こうきょうどう）完成（1935）— 孝経とは孔子の教え ●学園歌制定（1935） ●ベルリンオリンピック　前畑選手優勝　小島選手 6 位入賞（1936）

年代	世界のうごき	国内のうごき	学　園	大　学	中・高	小学校	幼稚園
1940〜	●太平洋戦争（1941 〜 1945） ●終戦（1945） ●国際連合発足（1945）	●東南海地震（1944） ● B29 名古屋大空襲（1945） ●広島、長崎に原爆（1945） ●日本国憲法公布（1946）	●学園の軍需工場化（1944） ●『糸菊』休刊（1944） ●金属類回収令」で孝経幢、前畑小島胸像供出 ●名古屋大空襲　椙山第一高等女学校焼失（1945） ●職員と、学徒動員の生徒爆死（1945）— 愛知航空機工場空襲 ●『糸菊』復刊（1949）	●椙山女子専門学校が「大学」として開学（1949）	●椙山中学校開校（1947） ●椙山女学園高等学校開校（1948） ●椙山中学校を椙山女学園中学校に改称（1948）		●椙山女子専門学校附属幼稚園開園（1942） ●幼稚園「戦時保育所」となる（1944） ●幼稚園休園（1945）
1950〜	●朝鮮戦争（1950 〜 1953） ●日米安保条約調印（1951） ●国際連合加盟（1956） ●ソ連初の人工衛星スプートニク（1957）	● NHK テレビジョン本放送開始（1953） ●初の原水爆禁止世界大会（広島）開催（1955） ●伊勢湾台風（1959） ●カラーテレビ放送開始（1960）	●学園旗制定（1951） ●学園創立 50 周年『學園五十年を語る』刊行（1954） ●孝経幢復興（1954）		●第 5 回国民体育大会で椙山女学園に高松宮来校（1950） ●新しい中・高の制服制定（1951） ●中・高プール再建（現駐輪場）（1951） ●中学校生徒会発足（1955） ●中・高新校舎竣工（1957）— 鉄筋コンクリート 5 階建て ●伊勢湾台風襲来で学園の被害甚大（1959）	●椙山女学園大学附属小学校開校（1952） 女子 12 名 ●男女共学となる（1954 〜 1963） ●小学校文集『なかよし』発刊（1955） ●小学校書初め展開始（1956） ●小学校英語発表会開始（1958）	●椙山女学園大学附属幼稚園として再開（1950）

年代	世界のうごき	国内のうごき	学　園	大　学	中・高	小学校	幼稚園
1960〜	●ベトナム戦争（1960〜1975） ●アポロ11号人類初の月面着陸(1969)	●安保闘争（1960） ●東海道新幹線開業（1964） ●東京オリンピック（1964）	●「人間橋」が星が丘キャンパスに完成（1962）―「人間になろう」のはじまり ●椙山正弌学園長（学園創設者）逝去（1964） ●椙山今子（学園創設者夫人）逝去（1965）	●大学星が丘キャンパスへ移転（1962） ●短期大学部開設 大学図書館開館（1969）	●第2プール完成（1961）― 現スポーツセンターの位置 ●「みち」発刊（中学校生徒会）(1965) ●「歩み」発刊（高等学校生徒会）（1965） ●中・高体育館兼講堂「和風館」完成（1969）	●新校旗樹立式（1965） ●縄跳び大会開始（1967） ●小学校新校舎完成（1968）	●遊戯彫刻「白鳥」（高藤鎮夫制作）砂場に設置（1960） ●新園舎完成(1968) ●三年保育再開（1968） ●英語の指導開始、父と子の体育遊び開始（1969）
1970〜	●日中平和友好条約調印（1978） ●スリーマイル島原発事故（1979）	●沖縄返還（1972）	●学園創立70周年『私学人椙山正弌』刊行（1975）	●大学文学部（国文学科・英文学科）設置（1972） ●日進グランド開設（1977） ●大学院家政学研究科（修士課程）設置（1977）	●高校生徒会会則制定（1976） ●高・中図書館棟完成(現北斗館)(1977)― 図書館、L・L教室、スタジオ、視聴覚室 ●中高機関紙「すぎやま」第1号発刊（1978） ●中高一貫教育開始（1978）― 教育目標「四つの柱」のスタート ●中学校「社会科移動教室」開始(1979) ●中学英語暗誦大会開始（1979） ●校内読書感想文コンクール開始（1979） ●高校修学旅行巡検方式開始（1979）	●「椙山才能教室」開始（1974〜1988） ●小学校全員給食開始（1979）	●30周年（1972）
1980〜	●スペースシャトル打ち上げ（1981） ●チェルノブイリ原子力発電所事故(1986) ●天安門事件(1989) ●「ベルリンの壁」崩壊（1989）	●男女雇用機会均等法（1986）	●学園創立75周年『椙山女学園七十五年史』刊行（1980）	●大学会館　希望橋（のぞみばし）完成（1985） ●星が丘キャンパス昭和61年度名古屋市都市景観賞受賞（1986） ●人間関係学部設置（日進キャンパス）（1987）	●中・高第二体育館「椙山スポーツセンター」完成（1982） ●「椙山100冊の本」「HR読書会」開始（1982） ●「進路の手引き」発刊（1986）― 生き方を考える進路指導の促進	●授業5日制　土曜日ノーカバンデー開始（1981） ●小学校校歌制定（1981） ●温水プールで初泳ぎ始業式開始(1982) ●社会科体験授業、野焼きの土器づくり、有松絞り、伊能忠敬の測量方法による地図作り開始（1985）	●全園児給食開始（1980） ●40周年（1982） ●附属幼稚園の歌「金剛鐘が鳴っている」制定（1985） ●新園舎完成(1986)

年代	世界のうごき	国内のうごき	学　園	大　学	中・高	小学校	幼稚園
1990〜	●ソビエト連邦崩壊（1991）	●日本人初の女性宇宙飛行士（向井千秋）（1994） ●阪神淡路大震災（1995） ●地下鉄サリン事件（1995） ●長野冬季オリンピック（1998）	●学内 LAN 整備（1995）	●家政学部を生活科学部と名称変更（1991） ●大学開学 50 周年（1999）	●『椙山の教育－中高の歩みこの 10 年』第一集発刊（1991） ●中学 3 分間スピーチ大会開始（1992） ●国際交流開始（1992） ●中・高夏期制服制定（1996） ●「椙山の教育－中高の歩みこの 5 年」発刊（1996） ●「全国私学性教育研修会」本校で開催（1998） ●高校通学カバンの自由化、中学椙山チェックバッグ使用開始（1999）	●小学校百人一首カルタ大会、全校実施開始（1990） ●1 年生より 2 学級制になる（1990） ●小学校北校舎増築（1992） ●小学校第 1 回イングリッシュデー（1993） ●「椙小教育」発刊（1993）	●集団降園廃止（1992） ●50 周年（1992） ●飼育・栽培活動開始（1994） ●安全・防犯対策強化開始（1994） ●エコキッズ認定園となる（1996） ●七夕花火会（現夕涼み会）開始（1999） ●未就園児親子教室「こねこクラブ」開始（1999）
2000〜	●米国同時多発テロ（2001） ●米国アフガン侵攻（2001） ●イラク戦争（2003）	●完全週休 5 日制「ゆとり教育」スタート（2002） ●中部国際空港完成（2005） ●愛・地球博（愛知万博）（2005）	●椙山オープンカレッジ開設（2002） ●学園創立 100 周年「第九」公演（2005） ●椙山人間交流会館開設（椙山人間学研究センター　国際交流センター　同窓会館）（2005） ●『椙山女学園百年史』刊行（2007） ●椙山歴史文化館開設（2009）	●大学院人間関係学研究科（修士課程）設置（2000） ●文化情報学部設置（2000） ●椙山女学園大学短期大学部閉学（2001） ●文学部改め国際コミュニケーション学部（2003） ●現代マネジメント学部開設（2003） ●生活科学部新棟完成（2005） ●大学教育学部開設（2007） ●大学開学 60 周年（2009）	●読書活動優秀実践校として文部科学大臣賞受賞（2001） ●「愛知県高校視聴覚研究大会」本校で開催（2001） ●中学校総合学習朝の 10 分間読書開始（2002） ●高校　総合「人間」開始（2002） ●中・高土曜講座開始（2002） ●「日本図書館協会研究集会」本校で開催（2004） ●山添キャンパス高等学校・中学校校舎改築完成（2006）	●全国小学生長ぞうきんかけ選手権第 1 位（2000） ●土曜教室開始（2002） ●朝の 10 分間読書開始（2002） ●パースホームステイ開始（2002） ●新体育館完成（2002） ●小学校創立 50 周年（2003）	●老人ホーム「くらら」訪問開始（2002） ●家族・地域の人と交わる「わくわくDAY」開始（2002） ●預かり保育開始（2002） ●長い滑り台取り替え（2002） ●すぎのこ絵本図書館開館（2002） ●給食アレルギー対策開始（2003） ●遊具クライミングウォール設置（2009）
2010〜		●東日本大震災（2011） ●福島第一原子力発電所事故（2011） ●東京スカイツリー完成（高さ 634 m）（2012）		●大学看護学部開設（2010） ●大学院現代マネジメント研究科　設置（2014） ●教育学研究科（修士課程）設置（2014）	●皇太子さま高校訪問（2014）― 献血運動推進全国大会で、生徒の発表を視察	●名古屋フィルハーモニーと共演交流活動（2010） ●ブルキナファソへ机と椅子の支援交流プロジェクト（2011） ●ユネスコスクール認定（2012） ●小学校新校舎完成（2013） ●小学校創立 60 周年（2013） ●ESD ユネスコ世界会議に小学校参加。公開授業実施（2014）	●幼稚園創立 60 周年（2012） ●幼稚園新校舎完成（2014） **保育園** ●保育園開始（2015）

椙山女学園　学校の変遷

椙山女学園学園歌

作詞／長谷部　親　弘
作曲／片　山　頴太郎

ああ業は難し
ああ道は遠し
されど
励まば　などか　成らざらむ
到らで　やまむ　我ならず
この学園よ
我等が輝ける　希望を
容れて　余りあり
いざやいざ
撓まず　倦まず　朝夕に
真理の道を　踏みわけて
心を磨き　身を鍛ひ
光ある世の　人たらむ

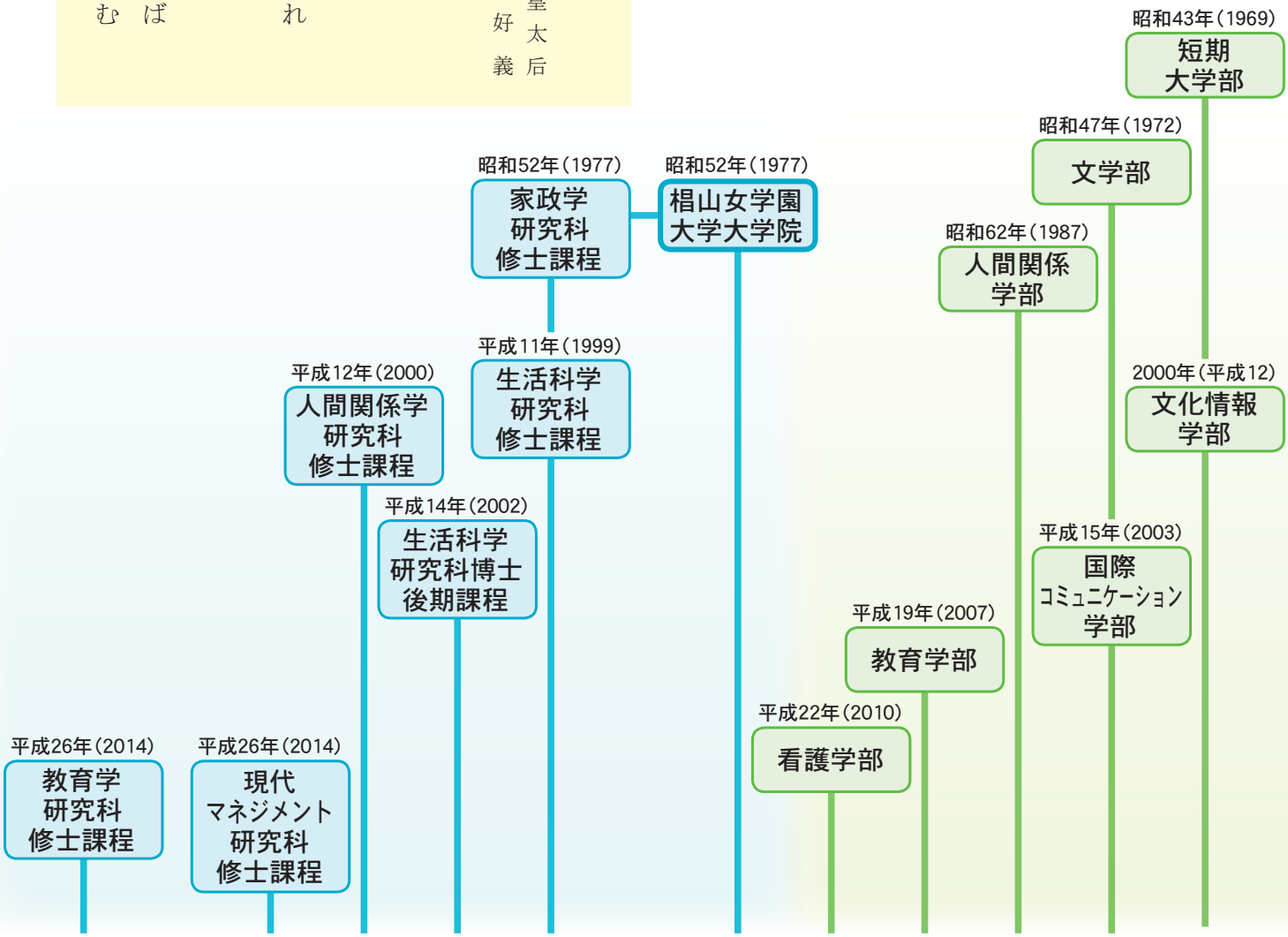
椙山女学園学園歌

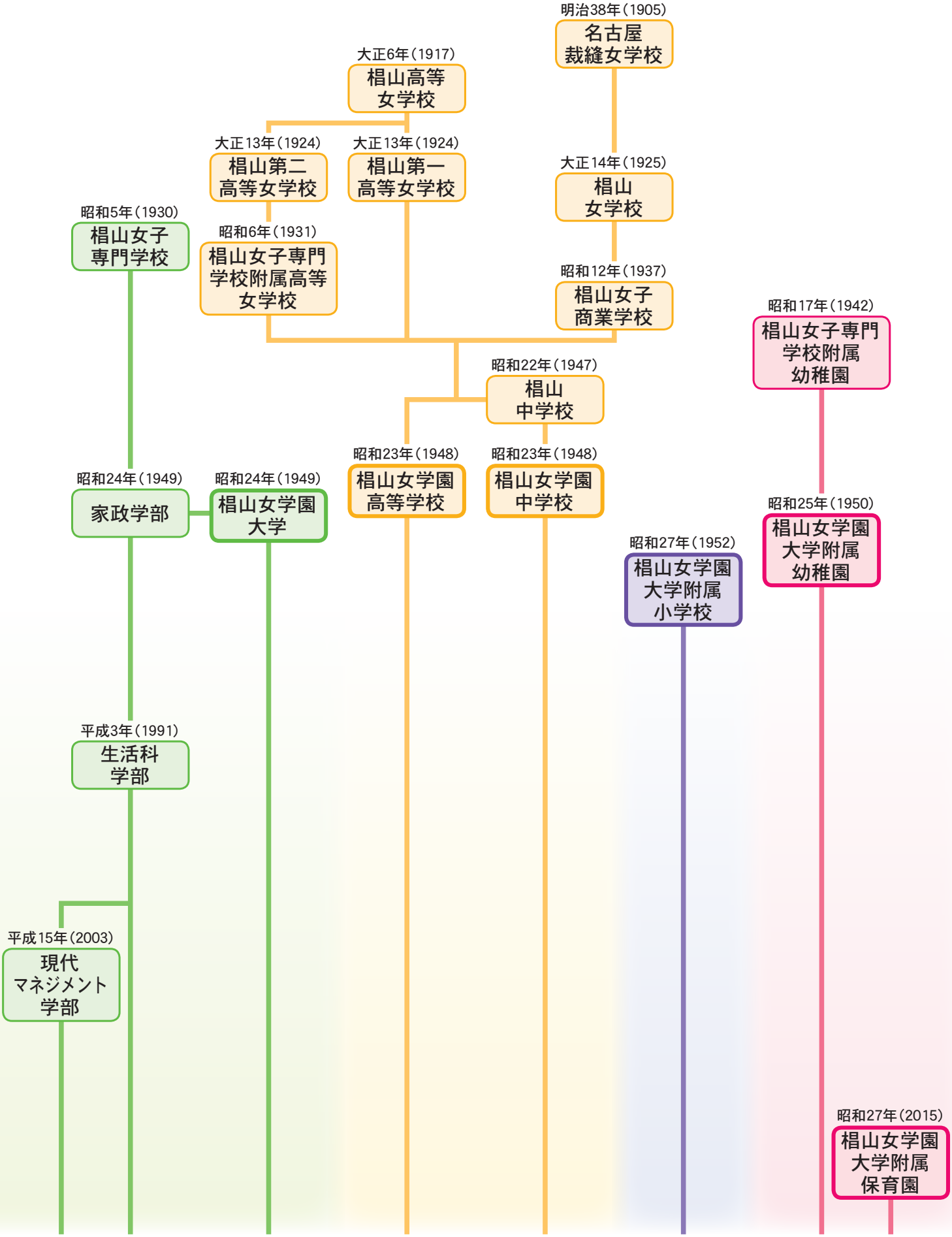
金剛石

作詞／昭憲皇太后
作曲／奥　好　義

金剛石も磨かずば
玉の光は添わざらん
人も学びて後にこそ
まことの徳はあらわるれ
時計の針の絶えまなく
めぐるが如く時の間の
日かげ惜しみて励みなば
いかなる業か成らざらむ

金剛鐘の演奏




明治38年（1905）
名古屋裁縫女学校
大正6年（1917）
椙山高等女学校
大正13年（1924）
椙山第二高等女学校
大正13年（1924）
椙山第一高等女学校
大正14年（1925）
椙山女学校
昭和5年（1930）
椙山女子専門学校
昭和6年（1931）
椙山女子専門学校附属高等女学校
昭和12年（1937）
椙山女子商業学校
昭和17年（1942）
椙山女子専門学校附属幼稚園
昭和22年（1947）
椙山中学校
昭和23年（1948）
椙山女学園高等学校
昭和23年（1948）
椙山女学園中学校
昭和24年（1949）
家政学部
昭和24年（1949）
椙山女学園大学
昭和25年（1950）
椙山女学園大学附属幼稚園
昭和27年（1952）
椙山女学園大学附属小学校
平成3年（1991）
生活科学部
平成15年（2003）
現代マネジメント学部
昭和27年（2015）
椙山女学園大学附属保育園

椙山女学園のあゆみ

発行日：2016 年 12 月 1 日　　編集・発行：椙山歴史文化館